大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
大正十四年四月十日印刷納本　大正十四年四月十五日發行

光

第四十輯

大正十四年四月

◆おひかりの生活の力……………西田天香
◆無所有不貪の生活……………松下吉衛
◆「無相の行者」の境地について……………谷口雅春
◆溢るゝいのち……………石川三十雄
◆路頭より……………相不行

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◆旅に出でて……………八田勝三
◆托鉢を受けて……………星蓮
◆天香師にあてたる（二）……………鈴木五郎
◆仰光雜詠……………舜祐
◆青燈下の斷想……………武田管次郎

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

卽ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとよく言辭の勞し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

おひかりの生活の力

西田天香

『一體どうすればよいのか』

とは、少しでも眞劒に、一身のこと一家のこと、一國乃至世界のことを、考へている人々の、何かの問題にぶちあたつて、時々ため息をついたあげくに思ふことである。

當座のことは、何とかかとか追ひよせてゆく、一通りの方針は一身一家についても立てゝあゆむ、しかしそれらはほんの眼前の取扱へ方である。自分の子供が學校の入學試驗を受ける爲めに、コレ〳〵のことが必要だといふ、其求むる物を與へ、賴まれる精神的援助をする、是等はサッサとはこばれる、ほんの眼先きの事であるから。若しどの學校に入れてよいのか、卒業してどうなるのか、此勉强の仕方で身體を弱めはせぬか、結局生活せん爲めの學問の眞價はどうか、などゝ考へ出せば、『一體どうすればよいのか』となり勝である。親も之れを疑ひ、眞面目な青年も亦是れを疑うてゐる。就いて人に尋ねると眞劒な人ほど答がしぶり、道を敎へる人に聞けば、愼重な人ほど輕々敷答へぬといふ事になる。

息子に何の商賣をさせたらよいか、どこへ娘をやつたらよいか、家庭のこと、社交のこと、精神的のこと物質上のこと、一つとしてはつきりした落付いた往き方が今示されてゐない。先生も往きつまり、政治家も往きつまり、實業家もその場逃れ、宗教家もくさい物にふたをして押してゆく。

縱に一身の上に一家の上にまた一國家の上に樣々の往きつまりの問題があり、橫に他人に對し他家に對し又國際的に樣々の難透難解の問題がある。

身內自省のこと身外他交の問題など、恐らくばあらゆる問題が『一體どうすればよいのか』とならぬものはない。それほど今の世の中に複雜で又往まつまつてゐる。

私は日露戰爭凱旋の當時、東鄉大將が入京された時の京都市民の提灯行列に岡崎方面で出遇つたことがある。ほとんど此時は廣々とした二條通りの今しも岡崎公園に入らんとする所などは、全市より集つた大多數の勢揃ひで、ほとんど軒下まで充溢した人のなだれであつた。私は或る橫町から出て向ひの橫町にわたるのに、流され流されて、とうど、岡崎へ流れこんだことを覺えてゐる。近代の文化の流れもそれと同じ感がする。凱旋祝ひの提灯行列は如何に流れても目出度いかも知れぬが、近代文化の流れの終點は、隨分とあぶないやうである。先きには歐洲の大戰爭となり現在ではその後始末の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

往きつまりとなり、此まゝなりであるならばどうやら暗中模索以上のことは見付かつてゐないらしい(どこにかくれてはつきり實行してゐるものがあるかも知れないが)。かような大きな潮流のうちにあつては、大は世界建替へを目論見る主義主張から小は一身一家の一寸した事に至るまで、必らずこの大潮流に流され勝ちになるのは當然である。

小さい一家内の節約にしても『着たまゝでよい』とふ約束の結婚が、矢張何荷のこしらへとなり、內務省の大童となつての節約宣傳の第一日目であつた昨冬の東京は帝國ホテルも精養軒も平日よりは多くの收入があつたとか。宗教によつて人心の安定を計らねばならぬと內務文部の大官連が云うてゐられても、場末の小學校に校長が少しく宗教的色彩を身現すれば、上からも下からも故障が起つたりする。かように一切のことが愈實行となると、案外な所から故障が起る。反對は多く愚者からは來ない、敎育を受けたものから來る。多くのものは割合にすなほである、善いこともまた惡いこともすなほに眞似る。誰れが作り出すか分らないが大方はその作られた大潮流に流されてしまうて、どうすることも出來ぬほどのこんがりかたである。そうして是が『一體どうすればよいのであるか』となるのである。

新らしい主義、新らしい思想、新らしい學問、是等に尊いものもあらう、けれども多くは權利思想に根ざしを置く。是れでは矢張流されてしまふ。新らしい文藝、新らしい修養、たとひ是等に何程か

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の自然と奉仕の祈りがあるにしても、根底に懺悔の生命がなくては、以て自利自他の樂園は產れぬらしい。物質的文明では駄目であるとのお題目は、どれほど各人によつてさけばれてゐるか知れない。しかし身を挺してその駄目な文明を捨てゝ往くものは極めて少い。

はつきりした提唱と、それにすゝむ實行方法と、實行者とは今最も必要なのであるまいか。政治家の宣言といふものは、殊に此頃の外交辭令はあてにならないこと甚しいが亞米利加の大統領クーリッヂの三月四日の第三十五代米國大統領正式就位の演說であるとて、翌五日大阪每日新聞の夕刊に載せてあつたものを見ると、その內に

「——平和維持を目的とする總ての計畫準備、すべての條約並に規約それ自身だけでは、決して平和を維持するに十分ではない、今日平和を妨げる最も重大なる障害の一は經濟的壓迫にある、而して各國の國民は此經濟的壓迫の下に支配せられてゐる、從つて今日世界に對して盡すべき最も實際的なる事業の一は此等の經濟的壓迫を除去し、新たなる機會を與へ、新たなる希望を呼起さしめる方法を發見することである。」

とある。以下卽ちと筆を起して

「卽ち奮闘努力の結果は必ず成效と繁榮を齎すものであるとの保證を與へねばならぬ。」

ともあり、又

「如此方法を發見するに對し、米國こそ無限の資源と同情を以てこれを果すの義務と機會を有するものといはねばならぬ、就中最重大なることは宗敎的信念と人類愛とに依つて支持され正義を基礎としたる法治時代に達して初めて各人の生活を完全に滿足せしむる希望を持つことが出來るとの自覺を生むまでは眞の平和は出來ないことを知ることである。」

とあり、また終りに

「米國は暴力と流血を以て築かれたる地上の帝國を追求するのでない、米國が送り出す戰士は劒を佩びずして十字架を負ふ。米國の達せんとする國は即ち此高き國である、人間は單なる人間ではない、神より出でたるものである、米國は全智全能の神の功績と光榮を讃へる他何等の目的をも抱かない。」

と結んであるが、その一番始めの

「米國の盡すべき最も重大な責務の一は世界の勢力均衡を整調し理想主義の最も實際的なる現實化として節約を實行することである。」

とあるのと合せて、兎に角『一體どうすればよいのか』に對する大提唱である。此大理想をその現れてくる政策及外交との矛盾などは、私の茲にあげつらふことではない。只根本問題に觸れた提唱であると見て修養的に味うて見るのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

私は此演說を繰返々々讀んだ。そうして一燈園生活と宣光社にむすびつけて見た。若しクーリッヂ氏が、眞個に此理想を衷心に持つてゐるものとするときは、それは一燈園生活と宣光社の規範を要求してゐるのであると思へるのである。

世界の勢力均衡を整調し理想主義の最實際的な現實化として節約を必要とするといふ說は、大成金國の亞米利加の大統領の意見として重も味がある、日本などはどの位極度に節約せねばならぬかを思ひ起させると同時に、如何にしたらその節約が實行出來るかとなると、一燈園生活に考へが及ぶのである。又「經濟的壓迫を除去し」とあるが除去は出來ないかも知れないが園生活なら飛躍が出來る。「除去々々」とさけびながらその壓迫の原因となり結果となつてゐる現生活から兎にも角にも飛躍超越して、原因とならず結果を受けぬ生涯を造り出してゐる。「新たなる機會を與へ」は如何なる機會も人の世界よりおひかりの世界へ移るほどの機會の新たさには及ぶまい。私は「米國が送り出す戰士は劍を佩びずして十字架を負ふ」とか「米國の達せんとする國は卽この高き國である」との言葉と共に、正に少くとも一燈園生活の樣なものに於いて、その願ひが實現されるのであるまいかと思ふ。又「新たなる希望を呼起さしめる方法」と說き出して「米國こそ無限の資源と同情とを以て」云々は外交的には排日的法案に對する日本の惡感情を和らげん爲めとも見られるが、實行的方面より見れば、從來の日本の移民の在米生活狀態の內、奮鬪努力の結果の成效だけは認むべきが當然であるとの聲明とも

なり、又正しき生活ならばそれに同情して、其無限の資源を提供すべきであるともなる。果して然らば、宣光社の如き理想をもつときは、その所謂「高き國を建て」『全智全能の神の功績と光榮とを讃へる社會の實現」の爲めには米國から呼び迎ふべきであるともいはねばならぬことになる。

大統領の此演說が、どの位誠意のこもれるものかは別問題であるが、こうした演說をするに於て大統領としての良心が落付くものとすれば、クーリッヂ氏は偉大な理想を持つてゐる人となり、又その理想を實現する爲めには、一燈園生活と宣光社の規範が必要といふことになるのである。

一燈園が少しく現在の潮流から飛躍した生活振りをすると、あまりに本能を無視してゐるといひ、また人間味がないなどと云ふ人がある。本能と人間味で生きつまりながら、かく云ふ人のあるときに私は只「そうですか」といふてはゐるが、全く眞劍さを缺いた時代かぶれの言葉です。ク氏の「人類は單なる人間ではない、神より出でたるものである」は、實に大きく正しく且徹底味がある。

『一體どうすればよいのか』に對して、たとひ小さい脚下のことでも、大きく正しく徹底味のある提唱と實行方法とその實行者がほしい。眼先きのその場逃れのものでなしに。

たとへそれが少し位世間とかけはなれても、習慣とちがつても、また若干の犧牲を拂うても、たとへ一時異端邪說と誤解されても。

若しそれを恐れて、潮流に押流されてゐるならば、無事を望んで危險となり、安全を期して破壞と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なろう。私はそれを恐れてゐる。少しも他に對しておびやかす様な事なくて、劍と血とでなくて、現在の大ゆきつまりをほどいて行きたい。徒らに他人にのみ求めないで、又暴力と强要とを用いないで、我も喜び人も喜びながら、新らしい「高き國」を造る爲めに高き生活を試みたい。そうして『一體どうすればよいのか』に答へて見たい。

燈灯行列に押し流されるやうでは、此望みは達せられない、その流れから越えねばならぬ。今の時代の思想潮流は何といふとも、おひかりによつて飛躍せねばならぬ。そうしてそれの一つが一燈園生活であると思ふのである。

小さい事で随分現代のゆきかたと反對な飛躍的な出來事が、一燈園生活を通じて澤山あらはれつゞいてゐる。見やうによれば小さい事のやうて又ながめ様によれば大事件である。一二の事を紹介しよう。

四五年前に一人の鑛山技師のI氏が突如として園生活に入られた。それまでになるには「懺悔の生活」を讀み、現代の生活相にあきたらなくて、随分考へぬかれたのであるが、妻なる人には寢耳に水であつたのである。I氏は園で眞劍な托鉢をされてゐたが、言ひ殘したI氏の言葉を了解し兼ねたその夫人は、私の常に立寄らせてもらふたY氏のお宅にゆき、そこの御夫婦に前後の始末と、主人呼び

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もどしの方法をたのまれた。無理もないことである。たのまれた家の奥様は私の立場に興味をもつてゐて下さる人、御主人も半ば理解を持つて下さる爲めに、一面に氣の毒なと思ひながら、露骨に呼戻さうともなさらす、I氏の妻子を蔭ながら世話して、來れば家に用事をさせながら慰めてゐて下さつた。それがいつの間にか、その立往生のまゝが矢張知らず識らずに托鉢にもなつてゐて、涙ながらではあるが、前の生活を捨てられた事にもなつてゐたのである。

I氏が少しく園生活に自信の付いた時分、Y氏のお勤めになる大きな官營事業の役所に托鉢にきてはその事であつて、I氏はそこに歸られた。役所の托鉢中に何か特種な能率の上つたことがあつて遂に一ヶ所の販賣機關を預けられた、形ばかりは役人さんになつたのですが心とその身姿及生活は托鉢生涯でさわりなく勤められたのである。

ある日屑物買ひがやつてきた。空箱空鑵また新聞繩瓶其他のおはらひものを拂ひ下げるのであるがひそかに袖のうちへ何ものかを入れやうとする。I氏は咎めて「何をなさるか？」屑屋さんは微笑をうかめて何ものをか持つ手を引込めた。I氏は云ふた、『自分は何も要らないからそれ丈物を高く正直に買ふて行くがよろしい』屑屋さんは、輕く頭をかいてうなづいたが、買代金が嵩みて持合せの金で足らなくなり、「一寸歸つて金を持つてきます」と云ふのをI氏は引取つて「何程足りませぬ？」「三十金ばかり」「よろしい私が立替へておく明日でも序に持つておいで、品物は皆持つておいでなさい」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

云はれた。

屑屋さんはビックリした。人の取りたいものは退けてあべこべに、みしらぬ屑買ひに三十金を立替へて呉れるお役人！、是は不思難で勿體ない！。云はれるまゝに立替へてもらひ考へ〳〵歸つて行つたが、どうにも明日まで待つて居られず夜の十一時にドン〳〵戸をたゝきながら持つてきた。只是だけの事のやうだが、此事を平氣で出來るI氏の生活は、普通の利己的のそれとは雲泥の相違である。同じ苗のやうでも米と粺とは段々に分れてくる。

十一時頃に尋ねて「有難う御立替下さつた三十金明日まで待てずにお返しにきました、あなたは不思議なお方です」と部屋の隅々迄見まはしたが、如何にも狹き小部屋に親子四人居らるゝ樣子を見て屑屋さんは「大方お宅が見付からないのでしようね、イヤ一つお家をさがして參りましよう」といふので、I氏は「家はこれで澤山だ」「けれ共奧樣がお困りでしよふ」すると夫人が「いやこれで澤山なのよ」。屑屋さんは驚いた「何もかも意外な事ばかり」と。

しかしながら此I氏の體度は首尾一貫してゐるのである。此部屋に滿足出來る生活、心をかざつて身を飾らぬ生活と、人の取りたい付屆けを取らないことは、三十金を立替へてやれる心の餘裕と一貫してゐます。此せち辛い世の生活のうち多くもあらぬ月給を、まだ多すぎると思へる生活は、主人は園の托鉢で、夫人は苦しまぎれの知らず識らずの托鉢できたひあげた無一物の生活が、今迄の技師然

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

として門戸をかまへた生涯のそれよりは樂しくなつた爲めである。

此I氏の一家の生活とそのおひかりの心が此賣店全部の人々に多少のひゞきを與へずには已まぬ。段々に色々の影響があつたある日、J氏の夫人が一燈園へはる〳〵托鉢にきた、それは主人のすゝめによる、此若き夫人の托鉢は却つてその主人に少からぬ力を投げた。此度の九州旅行の途次、此賣店に寄るのは私の一つの大な樂みであつた。滯在の時間は短かゝつたが此人等の水入らずの一種の共同生活を見るのは隨分樂いものであつた。

私はJさんに問うて見た、(此人は無邪氣な正直な働き人であつた、いつの間にか頭はクリ〳〵坊主に刈り込んでゐられた。)

『あなたの奥さんをよくも遠方まで托鉢のけいゐにお出しなされましたね、歸られて何かの土産が生活の上にありましたか』

『はい、ありがたう御座りました、隨分私のきもちもかはりました』

『それは難有いことです、何かそのかはりかたを聞かしてもらひますまいか、一つ二つ』

『左樣、私は今迄月給いたゞく日を待ち兼ねました、そして貰ふただけでは足らぬ勝でありましたのに、家内が托鉢して歸りましてから、いつのまにやら私の贅澤も消えました。このくらしになればお金はいらぬものですね、少しも無理をしないのに、ゆつたりとあまります、月給いたゞく日を忘れて暮らす事が出來て、誠に落付いて働けます。』

とであつた。私は是以上を列べない。併し、是は小さい問題ではない。別に敎育を受けた人でもなく若い血氣の夫婦ぐらし、周圍は皆足らぬ〳〵のさかり場所、いきり切つた澤山な働く人の群がる大工場、その鐵火の樣な生存競爭の眞中にて『月給いたゞく日を忘れます』といひ得る餘裕は何から來たか？、是れを統率するI氏の生活のそれからで、押して尋ぬれば一燈園の托鉢生活で又遡れば、、、おひかりの力である。

クーリッヂ大統領の、節約、經濟的壓迫から脫すること、新らしき機會、人類は神より出たものである、などの希望が玆に小さくその幾分があらはれてある。敎育も宗敎も現代の潮流に押流されては『月給があまる、いたゞく日を忘れる』ことは中々に六ケ敷い。永年敎へた生徒を見捨て僅か三圓の昇給の爲めに轉校した先生の事を不思議がるのを不思議がらねばならぬ世の中、それが當世でそれがあたりまへである世の中に、こんな事實が無造作に產れてゆく。小さい事で大き事であるまいか。

『一體どうすればよいのか』をク大統領の大提唱をまたずに、脚下の實際問題に對して提唱し、結婚の問題、子弟の敎育、其他日常の百般の事に應用し、提唱のみに止めずに實行して行くならば、大提唱あつて實行の出來ぬよりも一段と立派である。それが手近におひかりの生活から出來る。小事必らずしも小ならずである。時代を劃する仕事も實行の伴ふ小さい生命ある事から生れてくる。ふわ〳〵と流れて往く大きそうに見える生涯よりしつかりと根の下りる生命ある生涯へ移りたい。そうして『一體どうすればよいのか』に立派に解決を與へたい。

—大正十四、三、二七—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

無所有不貢の生活

松　下　吉　衛

財物わどう扱わるべきであるか、私有するのが良いか惡いか、萬人の和樂を圖りその生活の充實を期する上に、現存の經濟制度を持續することが最善策であるかどうか、問題の解決わ決して容易でわない。

有產者の多くが私產主義をとり、無產者の大部分がその否認論者であるとわ、一般的にいえようけれど、有產者中にも財產私有の不合理を認めながら、己れ一人どうするわけにも行かず、困惑している者が相當にあろうし、また等しく否認論者といつても、その根據とする所を異にした二つの立場があるように考えられる。

即ち一つわ、あくまで權利論に終始し、社會的生產による財物の唯一正當なる所有主わ社會そのものであるとの見解をとり、經濟的に政治的に階級鬪爭によつて有產者からその不當利得を奪還し、之れを社會に歸屬せしめて財物分配の公正を期し依つて以て萬人和樂の新時代を將來せんとする立場であり、他は、有產者の私產主義といわず無產者の共產主義といわず、一切の所有權思想を無みし、

進んでわ生存權そのものすら無條件にわ許されないものとし、而かも之れを單に思想的に扱わず、日々の實生活に具現して充實した生命感を味得せんとする立場である。

吾等が、今歩みつゝある道わ、財產問題に關する限り、この後者の立場に屬すると見なすことが出來よう。

しばらく事實を事實として語らしめよ。

一燈園生活者わ、先づ何を措いても、身命、財、能、すべてを捨てゝ、(更に適當にわ、捨てようと願じて)如實に家を出づることを、道の名に於いて求められる。人、一度、路頭に起つ、彼わおのづからにして隣人えの奉仕につくであろう。かくて不思議に許されて生きる事實。

この事實よ！　壯嚴を極めし風光よ！

資本家の如く財物を所有せず、勞働者の如く勞働力を賣らず、鬪爭してまで生きようとしないのに障りなく養われる。今さしせまり來つている生活問題、時代の苦惱たる社會問題に對する根本的解決の鍵わ、この事實の裡に見出だされないだろうか。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

自ら自らの問題を解決しておらず等しく所有慾につながりながら他に對して財物の放棄を强要するわ自家撞着に陥る嫌いがあるまいか。この點、社會運動にたづさわる人々の省察を乞わねばならない。しかも、有産者のなすところを見るに、名目上の自由契約をたてに「腐れ易き卵」の勞働力を値切り放題値切つて購い、かくて剩餘價値の搾取に謂う所の「文化生活」を依存せしめつゝ、「〇〇〇法」の制定わ何事ぞ。

吾等わ、社會運動者の高く掲げる旗印にわ衷心から敬意を拂い、組織改革の必要を感ずるに於いて決して人後に落ちるものでわないが、その有産者に對する呪咀と復讐との精神にそのまゝ與することが出來ず、有産者無産者の差別なく、一意、發菩提心を祈つて求められるまゝに奉仕するので、時に無産者さその運動者から嘲笑や反感を受け、改造途上の障害物扱えさえされることがある。又、吾等の奉仕の實わ、職業的に見て如何に能率があがらぬものであろうとも、時代苦と人心の悩みとに對する責任感懺悔の念からの誠にやみがたき祈りであるものを、有産者とその代辯者さわ無批判に吾等を叛逆者よばわりせんとする傾向がある。

かくて無産者勞働者にも正解されず、有産者資本家にもまた白眼を以て迎えられるとすれば、吾等わ何處に知己を求むべきであらう。

現在、全國に於ける一燈園同人の數わ、正確な算出に困難を感ずるが、實質的に觀て他の多くの既成宗教に比べて決して劣らないと信ぜられる。一燈園生活創始されて茲に二十有餘年、洛東鹿ヶ谷の道場を訪づれた求道者のみでも幾萬かの數にのぼつていよう。又「一燈園」とか「光の友の會」とかの名を掲げて、數人もしくわ數十人の同人が一種の教團を組織しているものも少からずある。東京一燈園もその一つ。常に路頭を生活の本據と心得ている同人の奉仕が、彼の震災にあつて家も財もすべて灰燼に歸した帝都の救護のことに幾分役立つたと見え、惠まれてその成立を見るにいたつたのである。

教團での同人の生活わ「能力に適する奉仕、必要に應ずる供養」のモットーが文字通りに行われておるということが出來よう。同人わ日々求められるまゝに或わ個別的に或わ集團的に奴僕の事から學的研究、禮拜讀經の役に至るまで多面多趣の奉仕をしている。他から惠まれるものわ、障りを作らぬよう吟味して受けてお光りの前に供え、なくて叶わぬものだけをまた相互に分ち合う。社會主義の理想わ、社會改革を經なければ實現されよう筈がないのであるが、こゝわこのまゝに資本主義ばなれした空氣がみなぎつているといえよう。

それわ宗教か？　宗教でないことわないが、普通の用語例に從うなら、單に宗教だと言いきりにくいふしがある。法執わ絶對になく、偶像も何一つもつていないつもり。「一燈園」という、何日の間に

か呼び習わされるにいたつた教團の名など、もちろん、どうでもかまわない。たゞ、第一義者わ至心に禮拜されなければならず、日々の生活わ、敬虔に徹し、不斷、自己省察と世相觀望とによつて引きしめられ充實されて行かなければならないと信じている。

同信同志の人のみが何よりの力である。一つに堅く結んで、個人的にわ煩惱の斷滅、社會的にわ時代苦の根絕に對して生活に即した祈りを懸命にこめ、人類愛の體現と社會的正義の確保とに献身したいと思ふ。

— 一四、三、一五 —

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「無相の行者」の境地について

谷口雅春

一

本誌三月號の住田蓮車さんの『托鉢三昧まで』に書かれた事件を極めて興味深く讀ませて頂きました。色いろのことが考へさせられます。Kさんと云ふ托鉢者が或るお妾さんの家で奉仕してゐると、『此のごみを、お隣りのごもく箱へ目付からぬやうに隙を伺つて、捨てゝ來て下さい』とたのまれる、Kさんは『さう云ふことは出來ません』と云つて斷はつたが、その斷はりのために相手の感情を害したことについて悶への心を起し、蓮車さんに、かゝる場合如何なる態度をとるべきかにつき尋ねられたと云ふのです。フランシスのお弟子の言行錄にでもありさうな敬虔な光景です。

此の時蓮車さんの答へられた言葉をかいつまんで云へば、『奉仕者たるものは如何なるたのまれに對しても拒んではならない。それはいと高き無相に住する德のために。奉仕者はたとひ盜めと云はれても拒んではならない。されば吾らは倒れるべく押されゝば何の反抗もなしに、例へば、佛倒しの佛様のやうに、いと從順に倒れねばならない。若し人間ごゝろで分別を起し、所謂る惡とみとめられる類

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

まれごとをしないとするならば、吾らは一歩も踏み出すことは出來ないであらう。しかも自分が、一歩も踏み出せずに立ちすくんでゐる、その場所さへも、果してかうしてゐていゝのかどうも解らなくなつて來るだらう。』と被仰られたのです。蓮車さんの此のお言葉も、またフランシスがそのお弟子に諭しでもするやうな、從順の德のよき讃美であると思ひました。

二

わたしは此の事件を機縁として、無相に住する德について考へずにはゐられませんでした。『奉仕者たる者は如何なるたのまれごとにも拒んでならない。』と云ふ言葉は、たのまれを、同時に、唯ひとつしか頼まれない場合には、そして、そのたのまれがお光りから來るものである場合には眞實だと思ひます。併し吾々はたのまれごとを唯、現在彼の前に立つてゐる人からのみ頼まれてゐると考へられないと思ひます。又吾々は必ずしもお光りからのみ頼まれる（お光りに使役せられる）とのみ考へられないと思ひます。『吾々は執着からも頼まれることが多いのです。私も必ずしもあらゆる頼まれに應諾してはゐません。唯お光りにまかせてゐれば、應じなくても好い頼まれは色いろの差支が出來て、應じずに濟むやうになるものです。』と云ふ意味を、私は嘗て丹波にゐた頃、私の宅へ來て下さつた天香さんから直接聞いたことがあります。

吾々は唯ひとつの「執着」からのみならず、同時に數多くの「執着」から、色々のたのみを持ち込

まれます。例へば、住田さんの擧げられた例に於ては、Kさんはお妾さんの執着からたのまれたのみならず、『社會的秩序は守るべし』と云ふ、目には見えぬが一つの「社會」かの呼び聲を聞いたのです。（或る觀方からすれば「社會」からたのまれたのです。自家の塵を他家の塵箱に捨てゝはならないと云ふのは、Kさんのわたくしの分別心だけではなく、社會の秩席の維持の上から、社會が常に各個人に要求してゐる——換言すれば各個人に頼んでゐるのです。）

斯かる場合Kさんの爲すべき方法を問題の錯輳をさけるために、假りに次の二つであると想像します。一つは、お妾さんからの頼まれを拒んで、社會からの頼みに應じて、たのまれた塵を隣りの家の塵箱に捨てぬことです。も一つは、社會からの頼まれを拒んでお妾さんの頼みに應ずることです。Kさんは前者を選ばれたし、蓮車さんは後者を選ぶべく勸められたのです。

わたしは一人の托鉢者が兩者より同時に斯くの如く、相反することを爲せと頼まれた場合に、何を標準として、一方からの頼まれを拒んで、一方からのみの頼まれを諾ふべきかについて考へて見たいと思ひます。若しその托鉢者が無礙身であるならば、お妾さんからの頼みに應じながら、その捨てようとする塵が、隣家の塵箱に容れられようとする刹那、その塵としての汚なさが消えて了つて光明が輝き出し、彼は妾さんからの頼みと、自家の塵を他家の塵箱に捨てゝはならないと云ふ社會的秩序からの頼みとを同時に充たし得るやうな奇蹟を演じ得るかも知れません。しかし斯くの如く相反する

兩者からの賴みを同時に充たし得る奇蹟を期待することが出來ないならば、吾等は一方からの「賴まれ」を背いて他の一方からの「賴まれ」を無視するのはまた已むを得ないのぢやないでせうか。この時奇蹟は、塵が輝く光明と化するやうな超自然的過程を通してゞはなく、一層自然的なる過程を通して來るべきであると私は信じます。

わたしはKさんがあの場合にお妾さんからの賴みに拒んだことがよかつたか、それともそれに拒まないで從順にそのたのみに從つて社會的秩序からの賴みに逆つた方がよかつたか、それは知ることが出來ません。それは「お光り」のみが知ることだと思ひます、假りにKさんが眞に「お光り」にまかせ切つた、完全に「お光り」と連繫のされた人であつたならば、その時の處置や言葉は、その刹那々々に「お光り」からの指圖によつてすることが出來ると思ひます。耶蘇も云つたとほりに、Kさんは、豫め今より如何になし如何に云はんと思煩ふ必要はないでせう。「お光り」が、み旨に從つて、應現自在にKさんを振舞はして吳れるでせう。

應現自在――これは眞に無相に住するもののみのなし得ることです。これは眞に「お光り」と連繫のされた人のみのなし得ることです。『拒んではならない』を唯一の規矩準繩にして、『拒むだけの自由』を失つたものは、もう『自由』から失墜した人です。『拒んではならない』は「無相」の境地に入るべき門であることは出來ます。それは我執を滅盡するための一つの階段であることは出來ます。併し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

それはたゞ門であり階段に過ぎません。『拒んではならない』は一相です。無相ではありません。無限相ではありません。私も一時「拒まない」一筋道をもつて無相そのものだと解してゐた頃に、丁度天香さんが「田ノ澤問題」のことで抗訴せられたことがあつたので、天香さんを苛辣に批評したことがありますが、今の私の考へでは、無相に住するものは相手に從つて自在に應現し、ある場合は夜叉の如き怒相をも現し、ある場合には觀世音菩薩の如き慈悲相をも現することが出來るべきだと思つてゐます。

三

Kさんの事件に立戻つて考へますと、お妾さんの「此のごみを、お隣りのごもく箱へ目付からぬやうに、隙を伺つて捨てゝ來て下さい、」と云ふ一つの賴みに對してだけでも、お妾さんの「機」が如何ほどまでに熟してゐるかに從つて、これに對する奉仕者の態度言葉なども無限に差異があるべきだと思ひます。もしKさんと「お光り」とが完全に結合が出來てゐますならば、「お光り」が、その場合お妾さんの「救ひ」のために、怒りと叱咤とが必要であれば、それをKさんを通してあらはし給ふに相違ないのであります。又、お妾さんの要求に從ふことがお妾さんを救ふ所以であると「お光り」がみとめ給ふならば、「お光り」はKさんをしてお妾さんの要求に從はしめませう。かくしてKさんは「お光り」の指圖のまゝに從順に、ある時は夜叉の如く、或時は觀世音の如く自己を現じて少しも悔いなくなる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

でせう。

お妾さんの機嫌を損じたことをあとになつて悔いなければならぬやうでは自在境ではないと思ひます。「お光がさせたのだ」と云ふ自覺、神と自己との結合の自覺がないからです。それは「我」をもつて拒み「我」をもつて悔いてゐるに過ぎません。「我」をもつて悔いることは無駄なことが多いのです。パウロは『我れみづからを審判かず』と云ひましたが此の境地に到達しなければなりません。Kさんは自分の拒みからお妾さんを怒らせたことを自分の不德だと解釋して煩悶せられましたが、一時お妾さんがそのために怒りの念を起したにしたところが、その夜彼女が床についてから、假初にも小惡をも犯すまいとして拒んだKさんの純潔が頭について寢られず、まだ此の世にこんな殊勝な人があるのかとしみぐ思つて、それが機緣となつて、彼女が、一層よき道に入ることが出來るかも知れません。さうするとKさんは拒絕したことについて悔いる必要はないわけです。要は、相手次第、自己の自在境次第で、相手の同じ要求に對しても應じ得る場合と、拒むべき場合とがありますので、「無相の行者」は千變萬化しなければならない譯だと思ひます。

四

如何に千變萬化しようと心掛けましても、人間心即ち「我」で分別してゐてはその應現に限度がありますす。善いと思つてしたことが善くない、悔いてゐることが却つて良結果をむすんだりします。そこで「無相の行者」は一切智と連結することが必要です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一切智――神――お光り――と結びつき、これに暗默のうちにみちびかれてゐる人は、もう、無畏です。もう無悔です。「お光り」はすべてを知りたまひ、すべてを調和に導きたまふからです。われひとり歩む時にも神と二人歩むなり。また、わが云ふ言葉とわがなす行ひとは神より來るが故に、究極に於てわれは相手の人を平和と幸福とに導くものであると信ずるものは、本當に相手を平和と幸福とにみちびくことが出來るでせう。何故なら自己の現在の相と三界は唯心の所現であるからです。信仰は神と自己とをつなぐものだからです。否、自己も亦本來「神」そのものなるが故に、信仰（最强最深なる凝念）によれば失つてゐた「神」の自由さを復活せしむることが出來るのです。Kさん、あなたは毎朝奉仕に出られる前に、あのやはり維摩の像の前で勤行をなされるのだらうと存じますが、あの短かい時間は「お光り」と自己とを結びつける絶好の機會です。單調な本魚のリズム、如何にも神々しいお經の節調、かうして勤行が終つていと心が清められた瞬間、「われ斯く心は清められたれば神は吾れを導きたまふ、われ神の御手にわが身をゆだぬ。神はわれを導きたまふが故にわが往く處のいづくの家庭にも平和は來る」と心の底より深き信仰の念もて、毎朝怠りなく思念して下さい。神についての思念は一つの祈りです。貴方は屹度、行く先き先きの家庭で平和の使ひとなることが出來るでせう。何故なら人はその信ずる所のものになるからです。此の音づれの最後の部分は紙面の都合などもあり、くはしい實行方法や、詳しい理論については書くことが出來ません。Kさん、も一貴方が御興味をお感じでしたら、お名前を御知らせ下さい、此の點について可成り詳細をつくしたホルムスの本の私の譯書を無代御差上げします。（兵庫縣武庫郡住吉村字梅ノ木）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

溢るゝいのち

石川三十雄

それは昨年の十一月中旬、晩秋の冷つこい風が道行く人の首を縮めさせる日の夕暮れであつた。

男體山の麓に近い故里のK町……そこで私は二年間程病床の身となつて苦呻した……そのK町の目抜の通りの街角にSといふ時計店がある。そこには二十を出た許りの青年が、店を經營してゐた。若主人…それは私の友人であり、その家には亦私の親友が寄宿してゐた。三人はうそ寒い街路に面して、大火鉢を圍んで雜談に時を費してゐた。

その時話しの最中を斷つて、親友の　が「おい！　あすこを見ろ、あの人を知つてゐるか。」と遮へた。彼の言葉は異狀に緊張してゐた。私は視線を強く投げて彼が注意した人を路上に發見しようと力めた。けれども、私には彼がどの人を指差して問ふたのか、それらしい人を瞳の中にとらへることが能きなかつた。

「誰も通らんじやないか。どの人が誰だといふんだ？」

「ああ…もう行き過ぎて見えない」

さう言ひ乍らNは履物を足先につゝかけたまゝ街頭に駈け出した。私も、それから店の主人公も出た。

「あれ、あの腕を組んで、丈の高い、黒い筒袖の衣物を着た人！」

私は彼の言葉を奪つて、早口に

「何んだい、あの見すぼらしい人が……」

「あれが天香だ、西田天香さんだ」

それから暫らく三人は無言で、その人の後姿を眺めた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

その夜私は例夜のやうにカルモチンを服んで床に寢入つた。が念頭を去來する幻の影を追つて私の眼は怪しく冴え返つて、安眠は破られた。幻の影！　それは夕景に街上で接した黑衣の姿であつた。

□

その翌朝、矢も楯もたまらず私は私ならの町にある鹿沼一燈園に走つて天香師を訪ねた。失望したことには、その時もう師は東京へ向つて去つた後で空しかつたことである。

當番のHさんに遇はして貰つた。

私は伺つた。

「一燈園のことについて御話しを承りたいのですが……」

「一燈園の何に就いてゞすか……」

「さあ　何といつて何でもよろしいのですが園の生活の斷片でも……」

「斷片といつて話したら、盡きませんがたゞ話しをすることは全く效のないことです。何か、具體的の問題を出して戴いて、それを如何に一燈園は扱ふか、その態度なり心持なりを語ること結構なのですが」

「さうですか——では、例へば私のやうに長男の立場にあつて一燈園に入らして貰ふとすれば兩親を如何にして扶養しますか。」

「兩親、それを考へることは第二義ではないでせうか。自己の解決のために園に來る、兩親といはず、一切の問題は自己の解決なしに或は自己を煩悶の中に置いたまゝでは、どうにもならぬ事ではないでせうか。その後です兩親の問題は。『托鉢行願』の中にも確かあつたと思ひますが『一人出家九族生天』と言ふことがあります。これも意味だけを解釋した所で役には立ちませぬ。行じて見て納得できることです」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「病人が園に入ると願つたらどうなさいますか。病人も困り園の方でも困るのじやありませんか。」

「それは實例として、病氣の方が托鉢をしながら健康を獲たといふことが澤山あります。」

「私にはそれを信ずることは出來ませんね。現に私自身は醫師から絶對安靜と封印されてゐて、自分も亦二年餘りの病人生活からそれを正理の信條として守つてゐます。このことは生理的に考へて理窟に合ふのですから」

「さうですか、ではどうにも仕樣がありません、まあ托鉢してみたらどうです！」

「さあ……まあ考へてみませう」

私は遂に安心できなかつた。當番さんとの問答はより深い懷疑と、より強い懊惱しか與へられなかつた。

あゝ私は救はれないと絶望の吐息を洩すより外なかつた。私の生命の黄昏は前途に靜かにその幕を擧げて待つてゐる。空間的には既に二年の春秋を一起一伏の常ない病狀に一喜一憂しつゝ病魔は刻一刻胸の中へ深く喰ひ入つて行く。肋膜炎、肺尖加答兒、腹膜炎と結核性の病根は深く擴くこの肉體の支配權をその掌中に奪ひつゝある。處方箋の幾枚、大小藥瓶の幾十、メートルグラスとグラム秤と、私の小さい本箱の中には所せまき迄にかうしたもの許りがその榮華を誇りかてある。私の生命は藥餌の中に朽ちて逝くようだ。

□

私は自分の生命への愛執を自ら斷たねばならない。生寄死歸也と謂ふ。私は歸らねばならない。光明の彼岸へ、父なる天國へ！

□

大正十三年十一月二十四日私は鹿沼一燈園の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

人となつた。私は救はれるために入へたのではなかつた。一燈園を墓にして、そこに自らの塋穴を掘り、墓標を樹てようとして迷ひ込んだのであつた。私は安心させられた。私をめぐる人達は少くとも慈悲と信仰と愛とに燃ゆる魂の持主であることを思つたから。私は靜かに瞑目して自分の臨終の光景、微笑みかけながら、死に就く樂しさなどを想像してさへも見た。もう私の心の中には父、母、兄弟、友人、愛人……否や私自らの存在さへも描かれてなかつた。

苦惱もなくなつた。といつて法悅もなかつた。あつたものは？　からつぽ！　何もなかつた。私にはあの心持を解剖するメスがない。或は解剖すべき何物もなかつたと言ひ切れるかも知れぬ。

□

最初の間は何やら經文の筆寫をさせて頂いた――後になつてそれは妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五であることを識つた――私の是迄の生涯は徹尾徹頭無信仰のそれであつた。血を連らねた親兄弟その他の親戚等にも一人の信仰を有てる者を見出せないのは慘ましい現實と感じられてならない。さうした人達は今の私の新境涯を何と見らるゝか、それは關知したことではないが、その神を見ざる血の中から私が生れたことは意味なき偶然とはいはれない氣がする。神の使徒として私は一門の罪障をわが十字架として負はしていたゞき度い。

私の緣族には經書のある家はない。よしあるにしても讀經の聲を耳にさせられなかつた。私は墓參に行つてもたゞ線香と草花を墓前に供へることによつて能事終れりとして形だけの回向に怪しみを抱かなかつた。

だから私はあの觀音經を淨寫さして頂いたと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

き、たゞそれだけのことに言ひ難い有難さを思へた。

私は筆の疲れ間には禪堂に默坐の時を惠まれた。菩薩像の下に頭を垂れては泣けて泣けて……膝を涙のまゝに委した。狹き門の扉は開けられた。遍照する光明の中！そこに私は罪障消滅の懺悔道を拜した。

□

靈驗！さう言はしていたゞき度いことが起つた。數日後の夜分の讀經が終つて同人の方々はその日の托鉢の感話など始められたとき、默座した私は左右の兩腕下に異樣な冷たさを感じた。

突然私は叫んだ。

「皆さんこれを御覽下さい」

そして腕の下へ差入れた左手を伸べて皆樣の前に不躾な掌を出した。香煙の燻じ煙る灯の下に五本の指は怪しく濡れ輝いて見えた。

「どうしたんです、それは……」

皆樣の視線は掌に注がれて、私の手は慄へた。

「私の腕の下がびつしよりと濡れてゐるんです、冷たいと思ふので手を入れて擦つたらこの通りなのです」

「まあ……」

さう言つて皆さんは今度は私の顔を眺められた。

「不思議ですね、この寒い晩に……」

「さう言はれると全く不思議な事です。私は冷え性で、夏もあまり汗を出さない方なのですが、前生涯の時分、外の人は夏はソフトカラー

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は汗でぐたぐたになつて困ると言ひましたが、私だけは汗がないのでそんな事はありませんのでしたに」

「きつとそれはあなたの今迄の病氣の根になつてゐる惡い熱、潛んでゐた心熱が逃げ出したに相違ありませんよ」

誰かさう云ふと座は笑顏に變つて、

「そうそう、それに違ひありません」

といふことに決した。

又誰か言はれた。

「風邪を引いたときなど、うんと發汗すると忽ち治りませう、その理と同じではないでせうか」

「石川さんのは光の御導きがさうなすつたのでせう」

私は感激に咽んで物も言へなかつた。

「有りがたう御座います、有がたう……」

とたゞそれだけだつた。

それから後ずつと私は皆樣の後について托鉢さして頂いて居る。東京て一寸風邪を引いたまゝ少しも健康に障りがない。不思議と言はうか、有難いと言はうか、私自身と私を識つて居らるゝ人々は、この事實の前に驚異の眼を瞠つてゐる。私はそれを光の力と言はして頂きたい。

おゝこの事實。あふるゝ生命の泉はこゝにこそある。

路頭より

相　不　行

御無沙汰いたしました。とう〳〵のどかな春がまゐりましたが、皆樣御機嫌よくあらせられますか。私は今月の二三日頃から風邪をひいて居りましたが、七日から發熱して昨日まで、太秦の一燈園で床についてゐました。少し樂になりましたので、洗濯しに、昨晩、家政女學校へ寄せて頂きました。泊めて貰ひました。今朝これから長濱方面へテクつかせて貰ひます。そして四月に天香樣が御見えになるまで彼地に御厄介になります。それから先は、どこへどう流れる事か、まだ分りませぬ。皆樣どうぞ御大事にして下さい。

—一四、三、一一—

× × × × ×

十一日夜は草津附近で一夜の宿を惠まれました。翌十二日は朝から神鳴やら雹が降るやらで凄じい天候でしたが、どうやら一時靜まりそうになつたのを便りに出發いたしましたら、三十分もたゝぬうちに、また荒出してひどい難澁な旅を致しました。雨風にたゝかれながら、それでも夕景までに十里ほども跋渉して、とある在所にはいりましたが、乞ふ家〳〵みなすげなく斷られ、二時間ほどもうろつく間に、泊めてくれるほど御親切な家はとう〳〵一軒も見つかりませんでした。湖上を渡る寒風は荒れ狂ひ、雨はみぞれに變つて着物はびしよ濡れです。そのうち日はとつぷり暮れてしまひ、暗の中に音もなく降る雪だけがチロ〳〵と白く見えるのも恨めしい。餓と寒さに震えながら、一體まア今夜はどうなるのか知らと思ひましたが、その時私のたましひは寂滅の曠野に千年の微笑を洩して居りました。寒さに齒をかち合せながら『阿字の子が阿字の古家に起き臥して、また立歸る古里もなし』と口ずさんで見ましたが、とても寒くて阿字どころではないような氣もしましたのでとう〳〵絕體絕命、駐在所の御厄介になつてまひました。そして旅費を貰つて無事長濱へ着きました。

—一四、三、一三—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

旅に出でて

八田勝三

夏より冬にかけての東山の景色や、去來する雲の姿！窓邊に同人の居より聞く人生の種々相！大概の事は坐つた儘で辨じられる二疊敷の當番室を、しみ〴〵有難いと思つてゐたが、七ヶ月半振りて旅に出れば、又隨分敎へられることがある。

△

發願の未だはつきりしてゐるとも思へない入園希望の方から

『△△からわざ〴〵やつて來たのですから、何卒入園させて下さい。』

斯う云つたやうな言葉を聞いても、

『私達の生活では、生活更改の發願こそ問題になれ、矩離の遠近なんかは枝葉のことで、單に遠くから御訪ね下つたことなんかゝ、御一諸に步ませて頂ける理由などにはならないやうに存じます。』

と可成强く云つて、拜んで歸つて頂いたやうな事が度々あつたが、たまさかに長々汽車に搖られてみると、そう扱はせて貰ふより仕方がなかつたまでも、私の態度が餘りに冷やか過ぎはしなかつたか？　もう少し訪ねて來られた方の側にたつて、考えてみる餘地がなかつたか知らと反省させられる。私の至らなさから、折角芽生えかけて居た道心を、枯らせて了つたやうな事もあつたろうと思へて、山口縣埴生驛を過ぎる頃、思はず合掌してゐた。

△

長府乃木邸跡のさゝやかさよ！

灯影小塾の帖半寮や、立寮さんのピアノの家も大同小異である。眞の生命には、大自然が搖籃を掌どる。

△

道を求めつゝ現實の生活をして居られる方々の眞劔さには、淚ぐましい努力がある。本當に延び上らうとする精進の閃めきがある。道を專念に步んでゐるかのやうに思ひ込んで了つて

ゐる私達には、却つて道に對する懈怠がある。安價な自己滿足と一種の優越感に、却つて白道を忘れて居る。

△

『人知れず咲いては枯れてゆく野の花のやうに、默々と行うて、歴史のどの頁にも書かれないで死んでゆく人々の埋まれた德！私達が惠まれて生かされてゆくのは、所謂人類の貢獻者に負ふ所は少くて、此の名も知られない人々の力に待つ事が多いのぢやないか知ら。』

此頃こんな風に思はせられる事が多くなつた。地下水三昧は私達の專賣特許ぢやなくて、寧ろ『行じてゐるのだ。』との誇りをも持たない人々の功德を、私達は現在貪つてゐるのぢやないか？、

△

光の友は事實より出發したい。斯く歩めりといふことを以て光友の章としたく、未だ思想のみに止まる方は、實證を待つて御連れになりたい。月一回位の集りにお光を讃嘆しても、實生活に何等の變化無ければ、羊頭を掲げて狗肉をうる類ひである。成すべき事は皆分つて居るのだ。唯實行だけが人生を支配する。

△

人生の次の頁には、何が待つてゐるか本當に分らない。僅か四日間八幡へ寄せて貰つてゐる間に、兎唇の手術で入院なすつてゐたYさんの坊ちやんがなくなつたり、十日前に息子様の園生活を喜んで御話下つて居たIさんの母堂の訃を聞く、文字通りに無常迅速である、理智は常に囁やく。

『何時も臨終なんだ。』

と。然かも私達の不用意さよ！

△

此度は至る處に舊知の方が待つて居て下つて、京都から離れて來て居るやうにも感じない。冥々のうちに通ずる此心持の暖かさ！　それは一切を超えて、總てを抱擁する。

―大正一四、三、五　福岡にて―

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

托鉢を受けて（一）

星蓮

光住生活の菩薩子が柔和忍辱の衣を被て私の暗住生活の中に托鉢して默々として奴婢の下行に日々の法悦を湛へらる。せちがらき世に便利なことはこの上もなし。何にを託してをいても安心で、其上皆私よりも智徳も人格もすゝんでいる。これを暗住生活方面に復歸させたらさぞエライ人であろう。もつたいないこと限なし。

恐ろしきは我身なり。私どもは元來この法施をうけるだけの資格ありや、この托鉢に對して供養しうるもの丶持合せがあるか、托鉢者は我慢我執を除く功德を積む、けれど單に奉仕をして頂いてそれで厚顏にも施者と心得て我福德を增すとも思われない。怖ろしきは我身なり。

みだりに托鉢を受くべからず。まづ我身を顧照せよ。我に未了の緣あらば甘んじて托鉢者の奉仕はうけられまじ。もし金牛和尚ならば飯桶をたゝいて菩薩子來菩薩子來と叫ぶだろうに。

一燈園には、金牛和尚が日々腹つゞみをうつて呵々大笑しているだろう。さなくば菩薩子は暗中摸索にくたびれることであろう。

しかも路頭は彼等の禪床で奉仕はその公案に違ひない。が、路頭は迷津である。單なる路頭に悟はない。されど悟れば又路頭はない。

彼等は大悟から生活をあみだそうとはせずに、生活から大悟をねらふ。それで生活といふ細い網にまとわれて、これが爲めに思ひがけない種々の批難を世間からうけているようである。

宇宙萬有からいへば、物其自身が光である。預けるものもなければ、預かるものもない。しかし、人から見ると宇宙萬有は尊き預かり物である。預かるべき因緣があつて預かるのであるから、我等の所有物は皆無所有の所有である。この無所有の所有物には爭奪などの氣分は塵ほどもない。我等は所有物などあろうとなかろうと、何の罣礙があろうぞ。

只管光りに撞著せよ。特權は威神力に化す。生活は遊戲と化す。我等は石上に花を栽せん。そして國土は皆このまゝに淨土となる。

さあれ、路頭は黑暗々の深坑なり。實に怖畏すべし。眼あき人も大抵は躓き仆る。あゝ嶮矣。行く者は戰々兢々として臨深履薄のうちにと、うちにと。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天香師にあてたる（二）

鈴木五郎

ありがたし！
ありがたし！

こんにち、春のように暖い田圃路を、石炭ぐるまを押し乍ら、ふとお光の深きみ惠みに遇ひ奉り、喜びに堪へませぬ。いはんかたもなく罪深く愚かな此の身を、いかなればかほど迄にお光はみ惠みをお垂れ下さいますのでございませうか？　思へば思ふほどそら恐ろしいばかりでございます。それもこれもすべて尊き師のお導きによる賜物でございます。たゞ有り難さにお禮の言葉も知りませぬ。どうぞなほ〳〵お導きの程お願ひあげます。

今日の心持の片鱗を書きしるしたものをお目にかけます。どうぞお手すきの時になほお教へを頂くことが出來ましたなら　誠に仕合せと存じます。さよなら。

心の表現

人の手は　二本である
何う工夫したとて　三本にはならぬ
併し　肉體のうちに　閉ぢ込められた心は
肉につける執はれから　脱する時に
宇宙をも包む
その時　宇宙は
我が心の　表現そのものである　姿である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

それであるから
宇宙のうちに　存在する
如何なる　小さい瑕瑾も
そのもとは　我が心の瑕瑾より
出づるものなることを實感し
これに對して　責任を感じ
懺悔する氣持が
起らねばならぬ。
　宇宙の　凡ての不調和に對して
責任を感じ、懺悔する氣持が
起こる時に
その人の心は
宇宙大になつたとゆう
證據である。

我は宇宙なり

私が
生れてから　一番の快心事は
宇宙そのものが我れであると
知つたことだ。

生　長

私は幼い時分
鏡に映る　自分の像を見て
これが　我が心の姿であると
思つた。

おゝ　それが今
何と云う　大きさに
生長したことだ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

宇宙そのものが
我が心の姿で
あらうとは！

三つの門

私は　初め
心は　肉體のうちに在ると
思つた。
やがて　私は
肉體は　心に包まれて在ることを
知つた。
だが今　私は
心は宇宙をも
包んでいることを
悟つた。

無礙自在界

この一つの宇宙が
凡ての人の心の姿だと云うことが
あり得るか？　その疑問を
起す人が　あるかも知れない。
だが　それは　心靈の問題を
物質的に考へて居るからだ。
心靈の世界は　超次元の世界だ、
同一の時に　同一の場所に
幾つもの世界が存在し得るのだ、
凡ての者が　一つのものを
同時に所有し得るのだ。
これこそ　無諍地だ
これこそ　無礙自在の世界だ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

仰光雜詠

舜　祐

兩兒晦日(みそか)に病みける時

熱に病む子等をみとれば　じやくまくの
中をながれて　舊き年逝く

子をみとる　重き憂に　しづもりて
年立つ朝を　迎へぬるかな

○

うからはら　皆病みふしぬ　眞冬日の
曇りがちなる　昨日此の頃

○

雪達磨　作りてと云ふ　子等のため
作りあたへぬ　白き兎を

笹の耳　あかき木の實の　眼をもてる
雪の兎を盃に載せたり

○

みどり子の　泣けば五つの　姉も泣きぬ
まごろみがての　妻のかなしも

○

霙降る　夕べわびしく　ぬれぬれし
草屋の棟ゆ　煙立つ見ゆ

○

ノート作る　夜更けのしじま　泣きやまぬ
みどり兒いだき　妻はなやめり

○

うなだれて　物な思へば　さむぐさ
ほころびそめし　梅に雨ふる

嬰兒の柩におさめたる

今は斯く　汝(な)を送るとも　子と親の
ゑにしはいかで　さはにたえめや

父母の　心おしゆと　生れこし
きよきみたまと　なをぞおろがむ

○

納骨の　白木の箱に　机しろ
ゆたにさゝげて　やゝになぐさむ

○

全治せば　退院すべき　この頃を
遺骨抱きて　父母泣けり

○

訪ろゝ　人をこそ待て　吾子(あこ)ゆきて
うつろのごとき　此の頃のわれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

青燈下の斷想

武田菅次郎

清らかな庭先きの植木から落ちる木の葉の姿ほど美しいものはあるまい。けれ共落ちた木の葉をぢつとみつめてゐるその靜思の一念にまさる清けさは亦ひとしほである。が更らにその落葉をかけくづれた箒でぽつり〳〵と大地もろともはきとるやうな動中の靜その端的ほど鋭く落着くときはないと思はれる。手に草をとり、心て心の草をとり、とつてもとつてもとり切れぬ煩惱の草、はいてもはいてもはき切れぬ五慾の落葉、かうしたものが宗教を生み哲學をなしさては藝術を生み求めつつあるけれ共それとてもみな煩惱の固りであり花であるのだ。聖者は煩惱卽菩提と敎へ釈迦は山川草木悉皆成佛と大覺をなし給ひ、孔孟は逝者如斯と流水により人生をといた。『眞理の探究』『實在の接觸』もみな落葉と流水にころがつてゐる。

□　□　□

眞黑な顔、色たくましい筋肉、肝じみた服を着けた勞働者の一戰場はみるからになつかしく物凄く感ぜられる。一日の勞働はとてもとても血のにじみ出るやうな眞劍なものだ。一日不作一日不食の祈願はこうした人人に拜まれ輝き充ちてゐる、けれ共かかる尊い人のあることを知らぬ所謂世の物知りの多くあることを、生きる爲に食ふか、食する爲に生きるかとこんなことどもさへも高調的に論ずる卓上の人人の根性が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

解らない。生きたければ食らへ食らへたければ働けばよいのだ。組織整然理論明快な論説は少くとも現代人はあききつてゐる。人生はそんななまぬるいものでなく現實はもつと深刻なものだもの。佛陀は八萬四千の法門を説き五千餘卷の經典を開いたけれ共結局一字不說と言つて實證と窮行の貴重を示したではないか。

□ □ □

生者必滅會者定離はこれ不磨の眞理である故に生も悅ぶべきにあらず死も悲しむべきにあらずと說く。これを悟道の人といひ、生を悅び死を態しみ恐るゝ者、これを凡夫と名づけらる。でも矢張り生は悅び死は悲しまれてならない。凡夫と聖者の境界の一線はどこにあるのか。唯に死を恐れぬ恐れるのみで凡聖の價値を背定するならば孔子は吾未だ生を不知いづくんぞ死を知らんやと語る筈がない。要は唯大死一番にあるらしい生死即ニルワーナの自覺にある。華嚴は親切な四ッのカテゴリーを提唱してゐる。人類の平和も文化の創造もみなこれを彼岸とせねばならぬ。

○本號表紙題字　後唐長興三年二月二十二日建立陀羅尼之幢（北京大學考古學研究室所藏）よりいたゞく。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謹告

拜啓 同人機關誌『光』は從來東京宣光社名義にて發行致居候處今度宣光社の組織を改め發行及編輯の事務分擔を左記の通りに變更いたし候間さやう御諒承たまはりたく此段謹告仕候 頓首

大正十四年二月

伊藤猛　西田天香
西田保太郎　小此木渾沌
中桐確太郎　松下吉衛
（いろは順）

京都市烏丸頭小山下總町五
回光社内
發行兼印刷人　西田保太郎
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一九

東京市本所區林町二ノ七八
編輯人　松下吉衛

附記
誌代は　京都市　回光社へ
玉稿は　東京市　松下吉衛へ

編輯人から

本誌わ一燈園の同人光友の機關誌たると共に、一燈園生活そのものに對する自由眞摯な評壇たる使命を擔いたいと思います。もとよりこれ論を好むがためにあらず、吾等が本願の成就を祈ればのこと。されば、掲載記事に對する異見わ皆さんから腹藏なく發表していたゞき、私共の生活を、この方面からも錬りに錬つて、獨斷論に禍されることのない生命力の漲つたもの、最も嚴正な意味の批判に堪えるものに磨き上げ、人類愛の生活化と社會的正義の確保と兼ねて文化諸相の調整とに聊か貢献したいと願つています。（松下）

定價　一ヶ月分　金二十錢　一ヶ年分　金二圓四十錢（郵税共）

大正十四年四月十日印刷納本（第四十輯）
大正十四年四月十五日發行

京都市烏丸頭小山下總町五
回光社内
發行兼印刷人　西田保太郎

東京市本所區林町二ノ七八
編輯人　松下吉衛

發行所　京都市烏丸頭小山下總町五番地　回光社
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

吉田暎二第一戲曲集

疲れた家

定價貳圓五拾錢
紙數三百三十頁
裝幀美本箱入

内容
疲れた家　兎と龜
道化　父

此處に納めた四篇は皆自分の習作に外ならないけれども、自分にとつてはどうにもならない問題のみを取扱つたものだ。『道化』では、「藝」と「家」、『父』では「家」と「道」との間の關係を取扱つた。「藝」に入るには、又「道」を修めるには、はたして「家」から出、家を捨てなくてはならないだらうか。それが正しいだらうか。自分にとつては可也大きな問題である。又「疲れた家」では現在の日本の中産階級のだらけきつた姿、無爲と困憊の內にしぼんで行くすがたを、比較的客觀的な立場から見つめさせて貰つた。いづれも藝術としては未熟ではあるだらうけれど、自分として取る態度と立場は今後と雖もこの小さな戲曲集より外へ出る事はないであらう。（著者）

發行所　東京市小石川區第六天町二四　段丘社　振替東京六四六七九番

發賣所　東京市日本橋區元柳町十　青々堂書店　振替東京四一八八三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN